岐阜県歴史資料保存協会の沿革

昭和４９年４月	県消防学校跡（岐阜市夕陽丘４）に岐阜県史料館準備室設置、同時に岐阜県市町村史研究連絡協議会準備委員会を設置
９月	岐阜県市町村史研究連絡協議会創立（２７日に岐阜総合庁舎大会議室で創立総会開催　７７市町村加入　会員１３４　松本平治氏初代会長に選任　事務局を県史料館準備室に置く）
11月	地区別研修会及び講習会を開催
12月	会報「濃飛史艸」創刊
５２年４月	岐阜県歴史資料館が設置され、７月に開館
８月	岐阜県市町村史研究連絡協議会の自主事業として、古文書読解講習会を岐阜県歴史資料館で２回（４日間）開催
５３年８月	岐阜県市町村史研究連絡協議会の自主事業として、古文書読解講習会を飛騨、東濃地区でも開催
10月	『濃飛地震写真集』刊行
	全国歴史資料保存連絡協議会総会を岐阜で開催（岩上次郎会長出席）
５４年５月	石川良宣氏会長に選任
８月	臨時総会を開催し岐阜県歴史資料保存協会と改称
５５年９月	『角川地名辞典』岐阜県版編纂に協力
５６年7･8月	古文書読解講習会を飛騨・東濃・中級会場で県委託事業として開催、別に岐阜初級会場も実施
	県委託事業として史料所在調査（郡上郡大和村牧区有文書）を実施し目録提出
５７年7･8月	古文書読解講習会を中濃地区でも開催し、県内４地域に拡大
	（東濃・中濃・中級会場は県委託事業、飛騨・岐阜入門会場は協会単独事業として実施）
	県委託事業として史料所在調査（揖斐郡藤橋村中島家文書）を実施し目録提出
５８年８月	古文書読解講習会を東濃・中濃地区を統合する形で中濃（関市）で開催、飛騨・岐阜初級・岐阜中級と全４会場で県委託事業として実施
	県委託事業として史料所在調査（関市鋳物師屋町早川義行氏所蔵文書）を実施し目録提出
	飛騨郡代高山陣屋文書目録を復刻印刷し頒布
５９年	県委託事業として史料所在調査（養老郡上石津町桑原権之助氏所蔵文書）を実施し目録提出
	林周教先生の業績をしのんで顕彰碑を建立
６０年	県委託事業として史料所在調査（揖斐郡池田町小森宣明家所蔵文書）を実施し目録提出
６１年	県委託事業として史料所在調査（吉城郡国府町区有文書）を実施し目録提出
６２年４月	公文書館法成立（岩上次郎氏ら議員立法）
５月	横山栄助氏会長に選任
	県委託事業として史料所在調査（恵那市正家自治会文書）を実施し目録提出
６３年	県委託事業として史料所在調査（安八郡墨俣町所在文書）を実施し目録提出
平成元年５月	創立１５周年記念式典　上松陽介前知事講演　会員３５８
10月	資料保存利用講習会で梶原拓知事講演
	県委託事業として史料所在調査目録作成（不破郡垂井町所在文書）県歴史館長へ提出
２年９月	「美濃の国・飛騨の国絵図」復刻発行
10月	歴史資料保存利用講習会で秋本敏文副知事が講演
	県委託事業として史料所在調査目録作成（益田郡小坂町長谷川家文書）
	復刻版等事業のため、前年度繰越金の一部を充て「基金会計」を創設
３年５月	太田三郎氏会長に選任
	古文書読解講習会を西濃地区でも開催
９月	『学校に見る濃尾震災』刊行
10月	県内５文化団体の一つとして知事との懇談会に参加

	県委託事業として史料所在調査目録作成（中津川市の藤井家文書）
４年11月	協会創立１８周年記念式典（歴史資料保存利用講習会と兼ねる）
	岐阜県歴史資料館発行『岐阜県歴史資料館所蔵資料撰』増刷刊行
	県委託事業として史料所在調査目録作成（恵那郡加子母村内木家文書）
５年	県委託事業として史料所在調査目録作成（益田郡萩原町中ロの大前家文書）
６年２月	『碑文をたずねて』刊行
８月	古文書読解講習会（県委託事業）の西濃会場で中級も開催され、入門・初級が中濃・飛騨・岐阜・西濃の３会場中級が岐阜・西濃の２会場となる。
９月	中国国家档案館（歴史資料館）と国際交流実施　３６名訪中
10月	２５日、創立２０周年記念式典開催　中国から８名が派遣され出席、祝賀パーティ
	会員数は５０２（市町村９９・賛助会員３１・個人会員３７２）
	創立２０周年記念として『岐阜県明治農具図絵』刊行
	県委託事業として史料所在調査目録作成（海津郡海津町本阿弥新田の佐野家文書）
７年	県内99市町村を対象に、公文書館所在調査（アンケート）を実施
	県委託事業として史料所在調査目録作成（本巣郡穂積町只越の福応寺文書）
８年３月	岐阜県歴史資料館編集『濃尾大震災の教訓』刊行
８年４月	岐阜県史編纂事業開始「歴史資料館運営委員会」を解散
	歴史資料の調査・保存に尽くした功績により県知事表彰を受ける
	県委託事業として史料所在調査目録作成（加茂郡川辺町中川辺の旗本大嶋氏関連文書）
	県委託事業として岐阜県民の北海道開拓の歴史調査開始
９年	県委託事業として史料所在調査目録作成（海津郡海津町役場文書その一）
10年４月	県委託事業として『大志を抱いて―岐阜県人の北海道開拓物語』刊行
５月	加納宏幸氏会長に選任
	県委託事業として史料所在調査目録作成（旧袖川村役場文書）
11年10月	創立２５周年記念式典（歴史資料保存利用講習会と兼ねる）開催、新家武彦岐阜県商工局長が講演
	県委託事業として史料所在調査目録作成（石原忠也家庄屋文書）
12年５月	『関ヶ原合戦と美濃・飛騨』刊行
	文化財保護法５０年記念式典で本協会が文化財保護功労により文部大臣表彰を受ける
	県委託事業として史料所在調査目録作成（土岐市高山村文書）
13年３月	岐阜県歴史資料館発行『織田信長と岐阜』復刻刊行
	歴史資料保存利用講習会で鬼頭善徳岐阜県県民生活局長が講演
	県委託事業として史料所在調査目録作成（岐阜市又丸の大野俊彦家文書）
14年５月	岐阜県教育委員会発行『岐阜県中世城館総合調査報告書第１集』増刷刊行
	総会で会則改正（副会長の１名は歴史資料館長を充てる。理事長を置く。事務局を新設し、事務局員は、岐阜県歴史資料館の職員を充て、会長が委嘱する事務局長は会務を処理する。）
10月	歴史資料保存利用講習会で坂田俊一副知事が講演
	県委託事業として史料所在調査目録作成（吉城郡国府町名張一之宮神社所蔵文書）
15年３月	いわゆる平成の「岐阜県史編纂」７年間に１２巻刊行し終結
５月	岐阜県教育委員会発行『岐阜県中世城館総合調査報告書第2集』増刷刊行
	歴史資料保存利用講習会で橋場克司岐阜県地域計画局長が講演
16年４月	県歴史資料館が(財)岐阜県教育文化財団所属となる
	岐阜県教育委員会発行『岐阜県中世城館総合調査報告書第3集』増刷刊行
	『広告が語るみの･ひだの近代化』刊行
	歴史資料保存利用講習会で創立３０周年記念式典･シンポジュウム実施　グランベール岐山で親睦会開催
17年3月	岐阜県教育委員会発行『岐阜県中世城館総合調査報告書第４集』増刷刊行
10月	歴史資料保存利用講習会で原正之副知事が講演
19年10月	歴史資料保存利用講習会で小山徹岐阜県教育次長が講演
20年５月	丸山幸太郎氏会長に選任

	総会で会則改正（副会長の１名は岐阜県歴史資料館長を充てる及び、事務局員は岐阜県歴史資料館職員を充てるを削除。）
10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県副知事西藤公司氏が「岐阜県の課題」と題して、大垣市教育委員会市史編纂室主幹坂東肇氏が「大垣の治水と金森吉次郎」と題して、多治見市図書館郷土資料室鈴木正男氏が「『文書は文化のＤＮＡ』をめざして―多治見市図書館郷土資料室の経験から―」と題して講演　８６名参加
21年４月	県歴史資料館の事業縮小･職員大幅削減にともない､協会は事務補助員を置く･古文書読解講習会は自費開催となる
５月	総会に先立ち創立３５周年式典開催　総会で県歴史資料館に関する知事宛要望書を決議
８月	県歴史資料館長復活
10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県副知事西藤公司氏が「岐阜県の宝物」と題して、可児市教育委員会市史編纂室長亀谷泰隆氏が「可児市史編纂資料の整理と保存」と題して、海津市歴史民俗資料館主事日置智氏が「歴史資料の活用」と題して講演　１０６名参加
22年10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県総合企画部観光交流推進局長古田菜穂子氏が「文化資源を感動資源に～岐阜県の宝ものと観光振興～」と題して、前岐阜県歴史資料保存協会理事池田勇次氏が「白山信仰と高賀修験集団について」と題して、各務原市歴史民俗資料館学芸員戸崎憲一氏が「鵜沼宿の保存と再生」と題して講演　　１１９名参加
23年10月	会報「濃飛史艸」100号発行
10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県副知事渕上俊則氏が「地方自治制度の変遷と課題―岐阜県政史料を参考にしながら現代の課題を考える」と題して、高山市元国府町史編纂室長酒井松彦氏が「高山市国府町史史料収集利用保存について」と題して、土岐市教育委員会文化振興課長林順一氏が「国指定史跡元屋敷陶器窯の保存整備と活用」と題して講演　９１名参加
24年10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県歴史資料館小川敏雄氏が「岐阜県歴史資料館の推移と現状」と題して、笠松町歴史資料館長高木敏彦氏が「笠松の歴史と文化を伝える」と題して、みのかも市民ミュージアム前館長可児光生氏が「木曽川と日本ライン～対象から昭和を中心に～と題して講演　８６名参加
25年４月	古文書読解講習会が県委託事業に復活する
5月	総会で協会の改革を求める意見が相次ぎ、改革委員会を設置し改革案をまとめる
	会報「濃飛史艸」年３回発行復活する
10月	歴史資料保存利用講習会で岐阜県総務部法務･情報公開課主査加藤浩紀氏が講演「公文書管理と歴史的公文書―公文書の適切な管理―」・「瑞浪の櫻堂薬師について」瑞浪市教育委員会スポーツ･文化課主査砂田普司氏が、「池田町の歴史資料の保存と活用について」池田町教育委員会社会教育課課長補佐横幕大祐氏が実践発表　７９名参加
26年５月	創立４０周年記念総会・講演会を開催　小川敏雄氏会長に選任 講演は国立公文書館覚雅貴係長による「国における公文書管理の取組状況について」 会員２９７のうち８０名参加　その後、記念レセプッション（県図書館内の杏にて）開催
	光回線導入し、協会のホームページとEメールを開設・協会専用の電話FAX設置
7･8月	古文書読解講習会を岐阜・西濃・中濃・飛騨・東濃の５県域で開催・岐阜県教育委員会共催承認受ける
10月	創立40周年記念歴史資料保存利用講習会を開催（シンポジューム「岐阜の文化力と資料保存」・講演は松田之利岐阜大学名誉教授による「明治維新と尾張藩―尾張藩の勤皇誘因を中心に―」）　１０７名参加
10月	小川敏雄会長他協会理事・役員が古田肇知事と面談し、協会の活動報告と支援要請を行う
27年５月	総会後に、笠谷和比古前国際日本文化研究センター教授が講演「関ケ原合戦の新しい歴史像」　２５０名参加
10月	歴史資料保存利用講習会で早川万年岐阜大学教授が講演「東海地域古代史の諸問題」・「〈飛騨国府アーカイブス〉の構築をめざして―国府史学会の取り組み―」国府史学会会長堀祥岳氏と「飛騨市の歴史資料と公文書の整理と利用」飛騨市行政資料調査室本永義博氏が実践発表　１２０名参加
28年５月	総会後に、増田孝愛知東邦大学教授が講演「乙部九郎兵衛の書状―徳川家康の孫・松平直政入府に際して―」　１５０名参加

10月	全体研修会　「明治と平成の史跡整備―関ヶ原古戦場―」と題して、関ケ原町歴史民俗資料館長草野道雄氏が実践発表・「和宮の美濃路東海道下向計画―起川の渡河計画と挫折―」と題して一宮市尾西歴史民俗資料館学芸員宮川充史氏が講演　９０名参加
29年５月	総会後に、藤田達生三重大学教授が講演「本能寺の変と将軍足利義昭―毛利・長宗我部同盟の視点から―」２００名参加
10月	全体研修会（歴史資料保存利用講習会を改称）で「西浦家文書について―古文書整理事業のあゆみ―」と題して、多治見市文化財保護センター学芸員岩井美和氏が実践発表・岐阜県歴史資料館開館40周年記念講演（県委託事業）として山本博文東京大学資料編纂所教授が「織豊政権と天皇」と題して講演　　２３０名参加
30年５月	総会後に、山田邦明愛知大学教授が講演「土岐頼康の時代―南北朝内乱と美濃・飛騨―」　２２４名参加
10月	全体研修会　「美濃市の歴史資料の収集と整理・編集について」と題して、美濃市史編纂委員高木和泉氏が実践発表・「墓からみた歴史　江戸時代の墓は『文化財』」と題して中津川市苗木遠山史料館資料調査員千早保之氏が講演　１０８名参加
令和元年５月	総会後に、斎藤夏来名古屋大学教授が講演「五山文学と織田氏」１８０名参加
10月	全体研修会　「輪之内学研究会の立ち上げと活動のあゆみ」と題して、元輪之内町教育長吉川道教氏が実践発表・「『比類なき大変ニ相成候』の状景」と題して小川敏雄岐阜県歴史資料保存協会会長が講演　８２名参加
２年５月	コロナ禍のため、総会・講演会を中止し、書面議決を実施
	古文書読解講習会も中止し、会員に自宅学習用資料２点を送付
10月	全体研修会　「岐阜城の発掘調査について」と題して、岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課主幹内堀信雄氏が実践発表・「明智光秀の虚像と実像」と題して呉座勇一国際日本文化研究センター助教が講演　１２６名参加
３年５月	コロナ禍のため、総会・講演会を中止し、書面議決を実施
7･8月	コロナ禍のため、古文書読解講習会を午後から１講師100分で実施（飛騨・東濃・中濃会場）
10月	コロナ禍のた全体研修会を中止
11･12月	コロナ禍のため、延期となっていた３会場（岐阜・西濃・中級）の講座を実施
４年５月	高木敏彦氏会長に選任（総会にて選任）
	総会後に、笹本正治長野県立歴史館特別館長・信州大学名誉教授が講演「戦国時代の実情にせまる」１５０名参加
7･8月	古文書読解講習会を６会場（中濃・東濃・飛騨・岐阜・西濃・中級）で実施。コロナ対策を徹底しつつ、定員も従来より抑えて実施　参加者は延べ７５０名超
10月	全体研修会　「大野あけぼのミュージアム（大野町埋蔵文化財センター）の開館について」と題して、大野町文化財調査室長の竹谷勝也氏が実践発表・「岐阜の学校事始め－飛騨・美濃における小学校の開業－」と題して同資料館学芸業務専門職（協会副会長）蓑島一美氏が講演　７５名参加
５年５月	総会で、市町村会費の値上げを前提として会則を改定（「市は年額１万円、町村は５千円」を「年額１口５千円で、市は２口以上、町村は１口以上」に改定　６年度から施行）　講演はNHK大河ドラマ『どうする家康』の時代考証担当の平山優氏による「家康と信長」　２３０名参加
7･8月	古文書読解講習会を６会場（中濃・東濃・飛騨・岐阜・西濃・中級）で実施　延べ参加者は７７５名　これまで『史料集』・『解読集』Ｂ５版別冊であったテキストをＡ版１冊に改編
10月	全体研修会　「『大垣市史』収集資料の整理と活用について」と題して、大垣市図書館歴史研究グループ主幹長瀬とも氏・同専門員坂東肇氏が実践発表・「美濃 徳川領国への道」と題して、岐阜県歴史資料館学芸員入江康太氏が講演　１０３名参加
６年５月	創立５０周年記念総会・講演会を開催　総会で河合孝憲岐阜県副知事・市町村会員代表森和之瑞穂市長が来賓挨拶　記念講演会は、「ＮＨＫ『ファミリーヒストリー』と歴史資料・公文書」と題して、ＮＨＫエンタープライズ シニア・プロデューサーの赤上亮氏が講演　１５４名参加
７・８・９月	古文書読解講習会を６会場（東濃・中濃・飛騨・岐阜・中級・西濃＝台風接近予報のため９月に順延）で実施　延べ参加者は７２０名

11月	創立５０周年記念シンポジウム「歴史資料の保存と新たな地域文化の創造に向けて」（「清流の国ぎふ」文化祭２０２４文化団体等事業補助金事業）開催　元岐阜大学教授早川万年氏・川村学園大学教授堀部猛氏が基調講演、パネラーとして岐阜県歴史資料館学芸員入江康太氏が「岐阜県歴史資料館における資料の整理、活用の現状」、揖斐川町総務部財政課係長髙橋康弘氏が「揖斐川町の文書管理の取り組み」、美濃加茂市民ミュージアム学芸員岩屋孝志氏が「展示に生かされる近現代行政文書―『石に刻む』展を例として―」と題して実践発表　１０４名参加